

更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野南弟子屈に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究などに主として文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

鹿の角印
著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



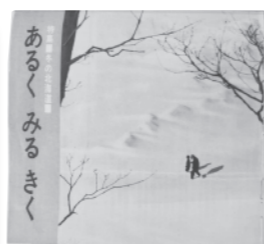
「宮本常一とあるいた昭和の日本17 北海道①」
更科の文章が載録されている



昭和46年2月号
【特集 春の北海道】



昭和47年9月号
【特集 秋の北海道】



昭和43年1月号
【特集 冬の北海道】



昭和43年6月号
【特集 夏の北海道】

月刊雑誌『あるくみるきく』

その中の一つ「特集 冬の北海道」には、冬に経験したことが書かれています。その一部を要約して紹介します。

冬のある日、更科が木材を運ぶトラックの荷台であろうか、乗せてもらい阿寒湖畔に行ったときのことです。体が凍ったように動かない状態で、顔見知りの旅館に着いたとき、旅館の主人からいきなり怒鳴られます。凍える冬道をはるばるやってきた旅人にやさしく

- 1968(昭和43)年1月号
【特集 冬の北海道】
- 1968(昭和43)年6月号
【特集 夏の北海道】
- 1971(昭和46)年2月号
【特集 春の北海道】
- 1972(昭和47)年9月号
【特集 秋の北海道】

更科は紀行文も数多く執筆し、旅行雑誌・新聞や紀行本などに原稿を寄せています。

「あるくみるきく」は、民俗学者・宮本常一が主宰した日本観光文化研究所が日本各地の気候風土などを編集、近畿日本ツーリストが発行していた月間の旅行雑誌です。更科の文章は、この雑誌の次の号にあります。

2011年3月に、更科や他の執筆者の文章を再編集した「あるくみるきく双書―宮本常一とあるいた昭和の日本17 北海道①」(農山漁村文化協会刊)が発行されました。決して過ぎ去った時間の話を再び掲載しているのではなく、現在を生きている人たちが忘れてしまった生活の知恵や地域の風土のことを、あらためて気付かせてくれる事柄が書かれています。

宮本常一は「旅は発見：書物の中で得られないものを得た。：体験は多くのことを反省させてくれる。」(同双書―はじめに―)から要約して引用と言ひ、観光文化を地域振興と人間交流の視点から研究する日本観光文化研究所を設立したとのことです。

ねぎらいの言葉をかけてくれるばかりと思っていた更科は、一瞬で正気になります。夕食のとき旅館の主人は、「冬道の遭難者は山の中や原野ではなく、人里の灯の見えるところにきて安心して気を失う」のだと話し、さきほどのことを詫びます。

(要約・筆者)

北国に住む者には「あつ！」と気付かせてくれる部分です。

ヒブワクチン 肺炎球菌ワクチン

対象のお子さんは 無料で接種できます

町では、ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンの接種費用を、次のとおり全額補助します。接種を希望される方は、役場保健福祉課健康推進係までご連絡ください。

- ▶ヒブ/インフルエンザb型菌のことを略してHib(ヒブ)と呼びます。通常でも鼻やのどにいる菌で、そのままでは病気にはなりません。血液や肺の中に入ると髄膜炎や敗血症、急性喉頭蓋炎などの深刻な病気を引き起こします。3歳を過ぎると抗体ができてくるので、ヒブによる重症感染症も減ってきます。ワクチン接種により、ヒブによるこれらの重症感染症予防の効果が期待できます。
- ▶肺炎球菌/肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症二大原因の一つです。この菌は子どもの多くが鼻の奥に持っている、ときに細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を引き起こします。ワクチン接種により、肺炎球菌によるこれらの重症感染症予防の効果が期待できます。
- ▶接種対象者/生後2カ月～5歳未満のお子さん(5歳以上になると十分な免疫を持っていると考えられるため)
- ▶接種回数/両ワクチンとも、接種開始時期によって異なります。標準的な開始時期(2～6カ月齢)に開始した場合は4回接種(初回3回、追加1回)で、年齢が上がるに従い接種回数は少なくなります。
- ▶副反応について/両ワクチン接種後に、他の予防接種でも見られるのと同様の副反応が見られますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多く見られるのは、接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)、発熱です。重い副反応として非常にまれですが、ショックアナフィラキシー症状(じんましん・呼吸困難など)が報告されています。また、先日報道されたワクチン接種と死亡事故については、ワクチン接種との因果関係は認められないと発表されています。

- ▶接種に当たって
 - 本ワクチンは、予防接種法の定期接種対象外で、任意接種となっています。なお、接種による健康被害の際には状況に応じて救済制度があります。
 - 接種を希望される方には、書類などをお送りいたしますので、必ず事前にご連絡ください。
- ※病院への予約だけでは接種できませんのでご注意ください。

□問い合わせ先/役場保健福祉課健康推進係 ☎482-2935(課直通)まで。

よろしくお祈いします！ 平成23年度公立学校管理職人事



弟子屈小学校
柿沼 聖哉 教頭



川湯小学校
中嶋 治代 校長



奥春別小学校
蝦名 尚志 校長



奥春別小学校
土居 慎也 教頭



川湯中学校
辻川 尚志 校長



弟子屈高等学校
宮嶋 衛次 校長



弟子屈高等学校
恩田 恵理子 事務長

平成23年度の公立学校管理職人事で、町立小・中学校5人、弟子屈高等学校2人、合わせて7人の異動がありました。町ではこれまでも、各学校・家庭・地域社会が連携した教育や、小・中学校、高等学校が連携した事業を展開するなど、教育の発展・充実に努めてきました。今年度も、教職員一同一丸となって、子どもたちのために最善を尽くしてまいりますので、よろしくお祈いします。

□問い合わせ先/町教育委員会管理課 ☎482-2945(課直通)、弟子屈高校 ☎482-2237まで。